

令和5年度 芸術科 シラバス

1.	午前部	1 音楽 I	・・・	P2
2.	午前部	2 音楽 I	・・・	P3
3.	午前部	C3 音楽 I	・・・	P4
4.	夜間部	nD 音楽 I	・・・	P5
5.	午前部	A1 音楽 II	・・・	P6
6.	午前部	D1 音楽 II	・・・	P7
7.	夜間部	n 音楽 II	・・・	P8
8.	午前部	B1 音楽 III	・・・	P9
9.	夜間部	nF 音楽 III	・・・	P10
10.	午前部	1 美術 I	・・・	P11
11.	午前部	2 美術 I	・・・	P12
12.	午前部	C3 美術 I	・・・	P13
13.	夜間部	nD 美術 I	・・・	P14
14.	午前部	A1 美術 II	・・・	P15
15.	午前部	D1 美術 II	・・・	P16
16.	夜間部	n 美術 II	・・・	P17
17.	午前部	B1 美術 III	・・・	P18
18.	夜間部	nF 美術 III	・・・	P19
19.	午前部	pC2 工芸 I	・・・	P20
20.	午前部	pA1 工芸 II	・・・	P21
21.	午前部	1 書道 I	・・・	P22
22.	午前部	2 書道 I	・・・	P23
23.	午前部	C3 書道 I	・・・	P24
24.	夜間部	nD 書道 I	・・・	P25
25.	午前部	A1 書道 II	・・・	P26
26.	午前部	D1 書道 II	・・・	P27
27.	夜間部	n 書道 II	・・・	P28
28.	午前部	B1 書道 III	・・・	P29
29.	夜間部	nF 書道 III	・・・	P30
30.	午前部	pB 硬筆	・・・	P31
31.	午前部	pC2 硬筆	・・・	P32
32.	午前部	pB 演奏研究	・・・	P33
33.	午前部	pC2 声楽	・・・	P34
34.	午前部	pB クラフトデザイン	・・・	P35

音楽 I (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
使用教科書	MOUSA1 (教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現 (歌唱) 表現 (創作) 鑑賞 楽典	斉唱・合唱 歌詞の研究 ミュージカル 記譜法
後期	表現 (歌唱) 表現 (器楽) 鑑賞 楽典 音楽史	斉唱・合唱 ミュージックベル オペラ 音楽用語など バロック～ロマン派

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や歌詞, 文化的・歴史的背景との関わり, または言葉の特性と曲種に応じた発声や楽器の奏法について理解を深めるとともに, 理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身につけている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 自己のイメージをもって歌唱や器楽, 創作表現を創意工夫していたり鑑賞している。	主体的・協働的に歌唱や器楽, 創作, 鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については, 従来の評価方法による。

音楽 I (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
使用教科書	MOUSA1 (教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現 (歌唱) 表現 (創作) 鑑賞 楽典	斉唱・合唱 歌詞の研究 ミュージカル 記譜法
後期	表現 (歌唱) 表現 (器楽) 鑑賞 楽典 音楽史	斉唱・合唱 ミュージックベル オペラ 音楽用語など バロック～ロマン派

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や歌詞, 文化的・歴史的背景との関わり, または言葉の特性と曲種に応じた発声や楽器の奏法について理解を深めるとともに, 理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身につけている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したものと感受したこととの関わりについて考え, 自己のイメージをもって歌唱や器楽, 創作表現を創意工夫していたり鑑賞している。	主体的・協働的に歌唱や器楽, 創作, 鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

音楽Ⅰ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
使用教科書	MOUSA1(教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現 (歌唱) 表現 (創作) 鑑賞 楽典	斉唱・合唱 歌詞の研究 ミュージカル 記譜法
後期	表現 (歌唱) 表現 (器楽) 鑑賞 楽典 音楽史	斉唱・合唱 ミュージックベル オペラ 音楽用語など バロック～ロマン派

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	授業の取り組み、筆記課題、実技課題、筆記テストから総合的に判断
留意事項	授業中は私語を慎むこと
アドバイス	音楽をしっかりと学びたい人は、続けて音楽Ⅱ・Ⅲを選択するのがよい

音楽 I (夜間部)	単位数	2 単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	幅広い音楽活動を通して、豊かな情操や感性を涵養し生涯にわたって音楽文化を愛好する心情を育て、技能知識を身につける。		
使用教科書	MOUSA1(教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前 期	表現 (歌唱)	斉唱・合唱
	表現 (器楽)	ピアノ・ギター 他 ミュージックベル
	鑑賞	古典派・バロック時代の音楽
後 期	表現 (歌唱)	斉唱・合唱
	表現 (器楽)	ピアノ・ギター 他 ミュージックベル
	鑑賞	ミュージカル・オペラなど

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	授業の取り組み(出欠を含む)、プリント課題提出、実技課題などから総合的に判断
留意事項	授業中は私語を慎み、携帯電話など使用しない。
アドバイス	歌唱や楽器、鑑賞など様々な活動をします。

音楽Ⅱ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
使用教科書	MOUSA2 (教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現 (歌唱) 表現 (器楽) 表現 (創作) 鑑賞 音楽史	斉唱・合唱 ピアノ・ギター メロディーを中心とした楽曲分析 交響曲 ルネサンス以前、近現代
後期	表現 (歌唱) 表現 (器楽) 表現 (創作) 鑑賞 音楽史	独唱・斉唱・合唱 ピアノ・ギター 和声を中心とした楽曲分析 ピアノ協奏曲など 洋楽の歴史、歌謡曲の歴史

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や歌詞, 文化的・歴史的背景との関わり, または言葉の特性と曲種に応じた発声や楽器の奏法について理解を深めるとともに, 理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身につけている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したものと感受したこととの関わりについて考え, 自己のイメージをもって歌唱や器楽, 創作表現を創意工夫していたり鑑賞している。	主体的・協働的に歌唱や器楽, 創作, 鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

音楽Ⅱ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
使用教科書	MOUSA2(教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現（歌唱） 表現（器楽） 表現（創作） 鑑賞 音楽史	斉唱・合唱 ピアノ・ギター メロディーを中心とした楽曲分析 交響曲 ルネサンス以前、近現代
後期	表現（歌唱） 表現（器楽） 表現（創作） 鑑賞 音楽史	独唱・斉唱・合唱 ピアノ・ギター 和声を中心とした楽曲分析 ピアノ協奏曲など 洋楽の歴史、歌謡曲の歴史

3 評価

履修の条件	音楽Ⅰを履修済みであること
評価の方法	授業の取り組み、筆記課題、実技課題、筆記テストから総合的に判断
留意事項	授業中は私語を慎むこと
アドバイス	音楽をしっかりと学びたい人に適している

音楽Ⅱ (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	音楽Ⅰで学習したことを基礎に、より豊かで主体的な表現・鑑賞の能力を伸ばし、豊かな情操や感性を育てる。		
使用教科書	MOUSA2(教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現 (歌唱)	斉唱・合唱
	表現 (器楽)	ピアノ・ギター、ドラム 他
	鑑賞	ロマン派・現代の曲
後期	表現 (歌唱)	斉唱・合唱
	表現 (器楽)	ピアノ・ギター、ドラム 他
	鑑賞	ミュージカル、オペラなど

3 評価

履修の条件	音楽Ⅰを履修済みであること
評価の方法	授業の取り組み (出欠を含む)、プリント課題提出、実技課題などから総合的に判断
留意事項	授業中は私語を慎み、携帯電話など使用しない。
アドバイス	歌唱や楽器、鑑賞など様々な活動をします。

音楽Ⅲ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。		
使用教科書	音楽Ⅲ改訂版（教出）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現（歌唱） 表現（器楽） 表現（創作） 鑑賞	独唱・斉唱・重唱 和楽器など 歌唱曲または器楽曲の作曲 お互いの演奏の鑑賞
後期	表現（歌唱） 表現（器楽） 表現（創作） ミニコンサート	独唱・斉唱・重唱 選択楽器 自作曲発表 成果発表（公開）

3 評価

履修の条件	音楽Ⅱを履修済みであること
評価の方法	授業の取り組み、筆記課題、実技課題、後期最後の発表成果などから総合的に判断
留意事項	授業中は私語を慎むこと
アドバイス	進路に音楽が必要な人や、音楽をさらに深く学びたい人は選択するとよい

音楽Ⅲ (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	音楽Ⅰ・Ⅱで得た知識や技能をより深め、生涯にわたって音楽を愛好する心を育て、芸術に対する感性をさらに磨く		
使用教科書	音楽Ⅲ改訂版(教出)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現(歌唱)	斉唱・合唱
	表現(器楽)	選択楽器 (ピアノ、ギター、ドラム、ベース、管楽器など)
	鑑賞	コードの知識、学習 お互いの演奏を発表しあう。
後期	表現(歌唱)	斉唱・合唱
	表現(器楽)	選択楽器 (ピアノ、ギター、ドラム、ベース、管楽器など)
	鑑賞	コードの学習、コード演奏 お互いの演奏を発表しあう。

3 評価

履修の条件	音楽Ⅱを履修済みであること
評価の方法	授業の取り組み、プリント提出、後期最後の独奏発表などから総合的に判断
留意事項	授業中は私語を慎み、携帯電話など使用しない。
アドバイス	歌唱や楽器、鑑賞など様々な活動をします。

美術 I (午前)	単位数	2 単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術の基礎・基本的な知識や表現方法を学ぶ。形・色・材料（素材）の理解と自己の芸術表現の体現をする。		
使用教科書	「高校美術 1」（日本文教出版）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 絵画の知識 遠近法（線・空気・色彩） 透視図法 ◆ レタリング（明朝体・ゴシック体） ◆ 絵画（B3） パネル水張り、表現技法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画の知識として遠近法と透視図法（1点・2点・3点）の技法を学ぶ。 ・ アイディアからデザインへの結びつける方法を学ぶ。 ・ レタリングの技法と実際に学ぶ。 ・ パネルに水張りをする方法と、B3パネルを使った絵画表現技法を学ぶ。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 色彩理論 色相環・トーン・寒色系、中性色系、暖色系・補色 ◆ 塑像 自分の顔 ◆ 鑑賞・美術史 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色彩の基礎・基本的な理論を学ぶ。 ・ 色彩理論に基づいたデザイン課題を制作しデザインの基礎・基本的な造形方法を学ぶ。 ・ 日本美術および西洋美術、現代美術と近代美術、絵画と彫刻等の映像を観ながら美術史について学ぶ。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 造形要素の働きを理解している。 ・ 意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・ 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 （ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品等で評価）	形態や色彩，構成，デザインの機能や効果などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。 （ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品などで評価）	主体的に創造活動や鑑賞の諸活動に取り組もうとしている。 （ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品・授業への意欲や態度等で評価）

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

美術 I (午前)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術の基礎・基本的な知識や表現方法を学ぶ。形・色・材料（素材）の理解と自己の芸術表現の体現をする。		
使用教科書	「高校美術1」（日本文教出版）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 絵画の知識 遠近法（線・空気・色彩） 透視図法 ◆ レタリング（明朝体・ゴシック体） ◆ 絵画（B3） パネル水張り、表現技法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画の知識として遠近法と透視図法（1点・2点・3点）の技法を学ぶ。 ・ アイディアからデザインへの結びつける方法を学ぶ。 ・ レタリングの技法と実際に学ぶ。 ・ パネルに水張りをする方法と、B3パネルを使った絵画表現技法を学ぶ。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 色彩理論 色相環・トーン・寒色系、中性色系、暖色系・補色 ◆ 塑像 自分の顔 ◆ 鑑賞・美術史 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色彩の基礎・基本的な理論を学ぶ。 ・ 色彩理論に基づいたデザイン課題を制作しデザインの基礎・基本的な造形方法を学ぶ。 ・ 日本美術および西洋美術、現代美術と近代美術、絵画と彫刻等の映像を観ながら美術史について学ぶ。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 造形要素の働きを理解している。 ・ 意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・ 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 （ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品等で評価）	形態や色彩，構成，デザインの機能や効果などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。 （ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品などで評価）	主体的に創造活動や鑑賞の諸活動に取り組もうとしている。 （ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品・授業への意欲や態度等で評価）

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

美術 I (午前)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術の基礎・基本的な知識や表現方法を学ぶ。形・色・材料（素材）の理解と自己の芸術表現の体現をする。		
使用教科書	「高校美術1」（日本文教出版）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 絵画の知識 遠近法（線・空気・色彩） 透視図法 ◆ レタリング（明朝体・ゴシック体） ◆ 絵画（B3） パネル水張り、表現技法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画の知識として遠近法と透視図法（1点・2点・3点）の技法を学ぶ。 ・ アイディアからデザインへの結びつける方法を学ぶ。 ・ レタリングの技法と実際に学ぶ。 ・ パネルに水張りをする方法と、B3パネルを使った絵画表現技法を学ぶ。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 色彩理論 色相環・トーン・寒色系、中性色系、暖色系・補色 ◆ 塑像 自分の顔 ◆ 鑑賞・美術史 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色彩の基礎・基本的な理論を学ぶ。 ・ 色彩理論に基づいたデザイン課題を制作しデザインの基礎・基本的な造形方法を学ぶ。 ・ 日本美術および西洋美術、現代美術と近代美術、絵画と彫刻等の映像を観ながら美術史について学ぶ。

3 評価

履修の条件	なし。
評価の方法	出欠、授業態度、授業参加、課題制作作品提出、期末考査（年2回）を総合的に判断。
留意事項	年間の教材費（一講座につき4,000円）前期作品は明鏡祭に展示。
アドバイス	美術系への進学志望生徒は履修を薦める。

美術 I (夜間)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	自分の個性に基づいた考えや形・色・材料で表現する学習であり、作品として自己実現していきます。		
使用教科書	「高校美術1」(日本文教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	鉛筆デッサン	・日常、目にする身近な物で、改めて見つめ直し 描きます。
	版画	・彫刻刀で版木を彫り、その凸部に絵の具をつけ 印刷します。
	色彩	・彩度、色相、明度の三属性について学び、実際に描いてみます。
後期	文字(レタリング)	・さまざまな文字の種類を学び、基本的な文字を 描きます。
	ポスター	・一人一人がテーマを決めてラフスケッチからポスターを仕上げていきます。
	鑑賞	・教科書に掲載されている作品を見ながら西洋および日本の美術の歴史と表現の特質を味わいます。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 造形要素の働きを理解している。 意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 (ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品等で評価)	形態や色彩, 構成, デザインの機能や効果などについて考え, 創造的な表現の構想を練っている。 (ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品などで評価)	主体的に創造活動や鑑賞の諸活動に取り組もうとしている。 (ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品・授業への意欲や態度等で評価)

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

美術Ⅱ (午前)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術Ⅰを履修後、基礎・基本的な芸術表現の知識および技術を生かし、さらに高度に発展的な表現をする。自らの感性の表出をめざす。		
使用教科書	「高校美術2」(日本文教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◆鉛筆デッサン 幾何形体(立方体・円柱・円錐・球・円錐に円柱が突き刺さる形体・正16面体) ◆絵画(B3)	・鉛筆デッサンの基礎・基本的な技法を学ぶ。 形、明暗、質感、量感、空間把握などの理論や技法について学ぶ。 ・パネルに水張りをする方法と、B3サイズパネルを使った発展的な絵画表現技法を学ぶ。
後期	◆デザイン・ポスター(B2) ◆鑑賞	・色彩理論に基づいたデザイン課題を制作し、デザインの発展的な造形方法を学ぶ。 ・デザイン・ポスター課題を制作しデザインの発展的な造形方法を学ぶ。 ・西洋美術、近代以降の美術や美術史について学ぶ。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・造形要素の働きを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 (ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品等で評価)	形態や色彩、構成、デザインの機能や効果などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 (ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品などで評価)	主体的に創造活動や鑑賞の諸活動に取り組もうとしている。 (ワークシート・アイディアスケッチ・定期考査・作品・授業への意欲や態度等で評価)

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

美術Ⅱ (午前)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術の基礎・基本的な知識や表現方法を学ぶ。形・色・材料（素材）の理解と自己の芸術表現の体現をする。		
使用教科書	「高校美術2」（日文）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◆鉛筆デッサン 幾何形体（立方体・円柱・円錐・球・円錐に円柱が突き刺さる形体・正16面体） ◆絵画（B3）	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆デッサンの基礎・基本的な技法を学ぶ。 形、明暗、質感、量感、空間把握などの理論や技法について学ぶ。 パネルに水張りをする方法と、B3サイズパネルを使った発展的な絵画表現技法を学ぶ。
後期	◆デザイン・ポスター（B2） ◆鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 色彩理論に基づいたデザイン課題を制作し、デザインの発展的な造形方法を学ぶ。 デザイン・ポスター課題を制作しデザインの発展的な造形方法を学ぶ。 西洋美術、近代以降の美術や美術史について学ぶ。

3 評価

履修の条件	なし。
評価の方法	出欠、授業態度、授業参加、課題制作作品提出、期末考査（年2回）を総合的に判断。
留意事項	年間の教材費（一講座につき4,000円）前期作品は明鏡祭に展示。
アドバイス	美術系への進学志望生徒は履修を薦める。

美術Ⅱ (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術Ⅰを履修した生徒が、次の段階として履修する科目です。基礎的な知識・技術を生かし、感性を働かせて制作に取り組みます。		
使用教科書	「高校美術2」(日文)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	素描 構想画 線材による造形	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆、ペン、木炭やコンテ等を使って文房具や画材を描きます。 水彩絵の具やアクリル絵の具を利用して「思い」や「夢」を表現します。 金属の線材を使って空間も含めた造形作品を作ります。
後期	立体造形 イラストレーション 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 紙粘土を素材に「形」や「用」の機能を考えながら制作していきます。 絵の具を使って挿絵を描きます。 教科書に載っている作品や作者の個性について味わいます。

3 評価

履修の条件	美術Ⅰ履修済であること。
評価の方法	出欠、授業に対する取り組み方や期限内での課題提出などです。
留意事項	年間の教材費が必要です。(一講座につき4,000円) 前期の作品は明鏡祭展示の対象作品になります。
アドバイス	美術系への進学志望の生徒は履修してください。

美術Ⅲ (午前)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術Ⅱを履修後、さらに高度に発展的・専門的な芸術表現をめざし、大作を制作する。自己の表現の可能性を模索する。		
使用教科書	「高校美術3」(日文)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ◆木炭画デッサン ◆絵画 (B1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・木炭デッサンの基礎・基本的な技法を学ぶ。形、明暗、質感、量感、空間把握などの理論や技法について学ぶ。 ・パネルに水張りをする方法と、B1サイズパネルを使った発展的応用的な絵画表現技法を学ぶ。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆モダンテクニック表現 ◆デザイン・ポスター (B2) ◆イラストレーション ◆鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩理論に基づいたデザイン課題を制作しデザインの発展的応用的な造形方法を学ぶ。 ・デザイン・ポスター課題 (B2) を制作しデザインの発展的応用的な造形方法を学ぶ。 ・イラストレーション課題 (B2) を制作しデザインの発展的応用的な造形方法を学ぶ。 ・日本美術の作家や作品、美術史について学ぶ。

3 評価

履修の条件	美術Ⅱを履修済。
評価の方法	出欠、授業態度、授業参加、課題制作作品提出、定期考査等を総合的に判断。
留意事項	年間の教材費 (一講座につき4,000円)。前期作品は明鏡祭に展示。
アドバイス	美術系への進学志望生徒は履修を薦める。

美術Ⅲ (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	美術Ⅱを履修した後、次の段階として履修する科目です。自分の興味や適性などを基に自ら課題を設定し、専門的に学習や制作に取り組みます。		
使用教科書	「高校美術3」(日文)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	木炭画	・石膏を木炭で描きます。
	写真	・自ら撮影した写真を切り抜いたり、合成したりするとともに写真立ても制作します。
	自画像	・鉛筆で自分の顔や全身を描きます。
後期	絵画	・油絵の具を使って風景を描きます。
	環境デザイン	・学校付近の景観や環境と調和したデザインを把握、具体的なアイデアを描きます。
	鑑賞	・教科書に載っている作者の主張を考えます。

3 評価

履修の条件	美術Ⅱ履修済であること。
評価の方法	出欠、授業に対する取り組み方や期限内での課題提出などです。
留意事項	年間の教材費が必要です。(一講座につき4,000円) 前期の作品は明鏡祭展示の対象作品になります。
アドバイス	美術系への進学志望の生徒は履修してください。

工芸 I (午後)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	多様な材料を使って、手でつくることの楽しさや喜びを味わうとともに、創造的なものづくりをする。造形についての基礎・基本的な技術を学ぶ。		
使用教科書	「工芸 I」(日本文教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ◆木彫の基礎練習 薬研彫り・肉合彫り・浮き彫り ◆製図の基礎知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・木彫の基礎・基本的な彫り方を学ぶ。薬研彫り・肉合彫り・浮彫りで表現する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆木彫筆箱 薬研彫り・肉合彫り・浮き彫り ◆鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・日用品の栓抜の柄のデザインを考え、木彫、彩色、ニス仕上げまでの造形工程を学ぶ。 ・信楽粘土を使って、陶芸の基礎・基本的な造形方法を学ぶ。 ・工芸品の制作過程の映像を鑑賞し、工芸の造形技法を学ぶ。

3 評価

履修の条件	旧課程のみ選択可能。
評価の方法	出欠、授業態度、授業参加、課題制作作品提出、期末考査等を総合的に判断。
留意事項	年間の教材費(一講座につき4,000円)
アドバイス	身の回りの伝統工芸品に興味をもってほしい。

工芸Ⅱ (午前・午後・夜間)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	工芸Ⅰを履修後、さらに発展的に造形技術を学ぶ。アイデア・スケッチから目的、機能を考え、機能や構造、材料(素材)の特性等を考慮しながら、発展的な造形表現をする。		
使用教科書	「工芸Ⅱ」(日文)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◆漆工芸 漆工芸(丸皿) 漆工芸(文箱・レリーフ彫刻)	・丸皿および文箱にレリーフ木彫を施し、漆塗りで仕上げながら、漆工芸の造形技法を学ぶ。
後期	◆木彫 スプーンの柄のデザインと制作 フォークの柄のデザインと制作	・日用品のスプーンおよびフォークの柄のデザインを考え、木彫、彩色、ニス仕上げまでの造形工程を学ぶ。

3 評価

履修の条件	旧課程の生徒であり、かつ工芸Ⅰを履修済。
評価の方法	出欠、授業態度、授業参加、課題制作作品提出、期末考査等を総合的に判断。
留意事項	年間の教材費(一講座につき4,000円)
アドバイス	伝統工芸分野への就職を考えている生徒には履修を薦める。

書道 I (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を働かせ、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。 ・書の実しさを感じ取り、伝統と文化についての理解を深める。 		
使用教科書	『書 I』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・漢字の書 楷書 (古典6点) ・競書大会作品制作 ・篆刻 導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道へ。用具用材、姿勢、執筆法を理解する。 ・楷書の歴史、用筆法、「初唐の三大家」を理解する。 ・楷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・既習古典の特徴をいかして、倣書する。 ・篆刻の歴史、篆書を学習する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻 ・文化祭作品の制作 ・漢字の書 行書 (古典2点) ・暮らしの中の書 ・漢字の書 隷書 (古典1点) ・仮名の書 (古典1点) ・漢字かな交じりの書の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の基礎を理解し、姓名印を制作する。 ・前期で学習した楷書の古典をいかした作品を制作し、展示発表を行う。 ・行書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・小筆等を用いて実用的な書の練習をする。 ・隷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・仮名の歴史、用筆法、いろは、連綿、変体仮名の基礎を学習する。 ・古筆の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・言葉と表現の関係性を考え、構成や用筆を工夫した作品制作を行う。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書風と用筆・運筆の関係性を理解し、基礎的な技能を身につけ表している。 ・漢字と仮名の調和した効果的な表現の基礎的な技能を身につけ表している。 ・日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、その良さや美しさを創造的に味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 ・日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書の良さや美しさを理解しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

書道 I (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を働かせ、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。 ・書の実しさを感じ取り、伝統と文化についての理解を深める。 		
使用教科書	『書 I』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・漢字の書 楷書 (古典6点) ・競書大会作品制作 ・篆刻 導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道へ。用具用材、姿勢、執筆法を理解する。 ・楷書の歴史、用筆法、「初唐の三大家」を理解する。 ・楷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・既習古典の特徴をいかして、倣書する。 ・篆刻の歴史、篆書を学習する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻 ・文化祭作品の制作 ・漢字の書 行書 (古典2点) ・暮らしの中の書 ・漢字の書 隷書 (古典1点) ・仮名の書 (古典1点) ・漢字かな交じりの書の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の基礎を理解し、姓名印を制作する。 ・前期で学習した楷書の古典をいかした作品を制作し、展示発表を行う。 ・行書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・小筆等を用いて実用的な書の練習をする。 ・隷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・仮名の歴史、用筆法、いろは、連綿、変体仮名の基礎を学習する。 ・古筆の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・言葉と表現の関係性を考え、構成や用筆を工夫した作品制作を行う。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書風と用筆・運筆の関係性を理解し、基礎的な技能を身につけ表している。 ・漢字と仮名の調和した効果的な表現の基礎的な技能を身につけ表している。 ・日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、その良さや美しさを創造的に味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 ・日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書の良さや美しさを理解しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

書道 I (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を働かせ、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。 ・書の美しさを感じ取り、伝統と文化についての理解を深める。 		
使用教科書	『書 I』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・漢字の書 楷書 (古典6点) ・競書大会作品制作 ・篆刻 導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道へ。用具用材、姿勢、執筆法を理解する。 ・楷書の歴史、用筆法、「初唐の三大家」を理解する。 ・楷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・既習古典の特徴をいかして、倣書する。 ・篆刻の歴史、篆書を学習する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻 ・文化祭作品の制作 ・漢字の書 行書 (古典2点) ・暮らしの中の書 ・漢字の書 隷書 (古典1点) ・仮名の書 (古典1点) ・漢字かな交じりの書の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の基礎を理解し、姓名印を制作する。 ・前期で学習した楷書の古典をいかした作品を制作し、展示発表を行う。 ・行書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・小筆等を用いて実用的な書の練習をする。 ・隷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・仮名の歴史、用筆法、いろは、連綿、変体仮名の基礎を学習する。 ・古筆の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・言葉と表現の関係性を考え、構成や用筆を工夫した作品制作を行う。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	出欠席、授業態度、学習意欲、提出物等を総合的に判断する。
留意事項	実習費有 (4,000円)
アドバイス	小中学校の「書写」とは違い、様々な表現方法を学びます。 初心者でも経験者でも同じスタートラインから始めることができます。

書道 I (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。		
使用教科書	『書 I』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・書写から書道へ ・姿勢、執筆法 ・文房四宝 ・楷書の学習(古典6点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、注意事項などについて理解する ・書写と書道の違い、書の分野について理解する ・基本的な姿勢、執筆法を身に付ける ・用具、用材に関する知識や使い方を理解する ・古典の鑑賞と臨書を通して、各古典の特徴を理解し、用筆法を習得する
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品の制作 ・行書の学習「蘭亭序」 ・生活の中の書 ・仮名の学習「高野切第三種」 ・漢字仮名交じりの書の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典学習で習得した用筆法を用いて文化祭作品を制作する ・古典の鑑賞と臨書を通して、行書の基本的用筆法を習得する ・年賀状の伝統的な書式を理解する ・古筆の鑑賞と臨書を通して、仮名の基本的用筆法を習得する ・漢字と仮名の調和を図り作品を制作する

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書風と用筆・運筆の関係性を理解し、基礎的な技能を身につけ表している。 ・漢字と仮名の調和した効果的な表現の基礎的な技能を身につけ表している。 ・日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、その良さや美しさを創造的に味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 ・日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書の良さや美しさを理解しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

書道Ⅱ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞など書道の創造的な諸活動を通して生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・書の文化や伝統について理解を深め、生活の中に取り入れる工夫をする。 		
使用教科書	『書Ⅱ』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・漢字の書 篆書 (古典2点) ・漢字の書 隸書 (古典2点) ・作品制作 ・競書大会作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、注意事項を確認する。 ・篆書(甲骨文、金文)の成り立ちについて学習する。 ・篆書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・隸書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・篆書または隸書による臨書作品を制作し、展示を行う。 ・既習の古典作品による倣書の意義を理解し、作品制作を行う。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品の制作 ・漢字の書 草書 (古典1点) ・漢字の書 行書 (古典2点) ・漢字の書 楷書 (古典2点) ・篆刻 ・カルタ制作 ・仮名の書 (古典2点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具、用材の特徴を理解し、構成や用筆法を工夫し、漢字かな交じり書の創作作品を制作し、展示発表を行う。 ・草書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・行書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・楷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・篆刻の作業手順を理解し、ひらがな印を制作する。 ・漢字かな交じり書を活用し、百人一首を用いてカルタを制作する。 ・古筆の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書を構成する様々な要素や各書体の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につけている。 ・書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成について構想し、工夫している。 ・古典の価値とその根拠、書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科書道の学習に関心を持ち、主体的に書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・主体的に書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

書道Ⅱ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞など書道の創造的な諸活動を通して生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・書の文化や伝統について理解を深め、生活の中に取り入れる工夫をする。 		
使用教科書	『書Ⅱ』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・漢字の書 篆書 (古典2点) ・漢字の書 隷書 (古典2点) ・作品制作 ・競書大会作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、注意事項を確認する。 ・篆書(甲骨文、金文)の成り立ちについて学習する。 ・篆書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・隷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・篆書または隷書による臨書作品を制作し、展示を行う。 ・既習の古典作品による倣書の意義を理解し、作品制作を行う。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品の制作 ・漢字の書 草書 (古典1点) ・漢字の書 行書 (古典2点) ・漢字の書 楷書 (古典2点) ・篆刻 ・カルタ制作 ・仮名の書 (古典2点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具、用材の特徴を理解し、構成や用筆法を工夫し、漢字かな交じり書の創作作品を制作し、展示発表を行う。 ・草書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・行書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・楷書作品の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・篆刻の作業手順を理解し、ひらがな印を制作する。 ・漢字かな交じり書を活用し、百人一首を用いてカルタを制作する。 ・古筆の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。

3 評価

履修の条件	「書道Ⅰ」を履修済みであること
評価の方法	出欠席、授業態度、学習意欲、提出物等を総合的に判断する。
留意事項	実習費有 (4,000円)
アドバイス	書道Ⅰの学習をさらに発展させ、創作活動を中心に学習します。 意欲的に取り組み、表現の幅を広げましょう。

書道Ⅱ (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	年次選択履修

1 科目の概要

学習目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。		
使用教科書	『書Ⅱ』（光村図書）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・篆書の学習 ・篆刻 ・隸書の学習 ・生活の中の書（暑中見舞い） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、注意事項などについて理解する ・篆書の歴史的な位置づけを理解し、その技法を習得する ・篆刻の手順を理解し、姓名印を制作する ・隸書の歴史的な位置づけを理解し、その技法を習得する ・葉書の書式を理解し、表現を工夫する
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品の制作 ・草書、行書、楷書の学習 ・生活の中の書（年賀状） ・仮名の書の学習 ・漢字仮名交じりの書の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典学習で習得した用筆法を用いて文化祭作品を制作する ・草書、行書、楷書の歴史的な位置づけを理解し、その技法を習得する ・年賀状の書式を理解し、表現を工夫する ・古筆の時代背景を理解し、表現技法を習得する ・漢字と仮名の調和を図り、意図に応じた表現を工夫する

3 評価

履修の条件	「書道Ⅰ」を履修済みであること
評価の方法	出欠席、授業態度、学習意欲、提出物等総合的に判断する。
留意事項	実習費有（4,000円）
アドバイス	さまざまな書体を学習することで表現の幅を広げましょう。

書道Ⅲ (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞など書道の創造的な諸活動を通して生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・書の文化や伝統について理解を深め、生活の中に取り入れる工夫をする。 		
使用教科書	『書Ⅲ』(光村図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・臨書研究(漢字の書) ・少字数書(大字作品) ・競書大会作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、注意事項を確認する。 ・五書体(篆書・隸書・草書・行書・楷書)の用筆法の復習と発展学習を行う。 ・漢字一字を書体や構成を工夫し、創作作品を制作する。 ・既習の古典作品による倣書の意義を理解し、作品制作を行う。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・刻字制作(文化祭作品) ・細字の練習 ・仮名の書 ・修了展の作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・セラミックボードと彫刻刀を用いて、自書した文字を刻し、立体的な書と色彩の効果を理解する。 ・小筆による楷書と行書の細字練習を行い、実用書への活用法を学習する。 ・古筆の臨書により用筆法、書風等を習得し、作品の鑑賞を行う。 ・書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学んできた成果として作品を制作し、発表する場として修了展を行う。展示作業方法も学習する。

3 評価

履修の条件	「書道Ⅱ」を履修済みであること
評価の方法	出欠席、授業態度、学習意欲、提出物等を総合的に判断する。
留意事項	実習費有(4,000円)
アドバイス	様々な大きさの紙や用具を用いて、自分が表現したい作品を制作します。また、「刻字」という新しい作品づくりも行い、1年間を通して自分で考え、行動する内容が多くなります。

書道Ⅲ (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の高める。		
使用教科書	『書Ⅲ』（光村図書）	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・漢字の書の学習 篆書、隸書 草書、行書、楷書 漢字創作 ・くらしの中の書（暑中見舞い） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、注意事項などについて理解する ・臨書や鑑賞を通じて、各古典の用筆法・運筆法や表現の特徴を理解する ・自分の意図を表現できる技法を習得する ・古典学習で習得した用筆法を用いて漢字作品を制作する ・葉書の書式を理解し、個性的な表現を工夫する
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品の制作 ・仮名の書の学習 ・くらしの中の書（年賀状） ・漢字仮名交じりの書の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の用筆法を用いて文化祭作品を制作する ・臨書や鑑賞を通じて、各古典の用筆法・運筆法や表現の特徴を理解する ・年賀状の書式を理解し、個性的な表現を工夫する ・漢字の各書体や書風に調和する仮名の表現を工夫する

3 評価

履修の条件	「書道Ⅱ」を履修済みであること
評価の方法	出欠席、授業態度、学習意欲、提出物等総合的に判断する。
留意事項	実習費有（4,000円）
アドバイス	小品から条幅作品まで、自分の意図する表現で作品を制作します。

硬 筆 (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	手書きに親しむ諸活動を通して、文字を大切に丁寧に扱う心情を育てるとともに、書写能力を高め、暮らしの中の実用書式について理解を深める。		
使用教科書	『くらしのペン習字』(教育図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・楷書の基本 ・筆順の確認 ・平仮名と片仮名の基本 ・履歴書 ・志望理由書 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み方などを理解する。 ・楷書の基本的な字形等を理解し、習得する。 ・正しい筆順を理解する。 ・平仮名と片仮名の字源、基本的な字形を理解して書きぐせを直す。 ・履歴書の書式を理解し、正確に書く。 ・志望理由書の書式を理解し、丁寧に書く。
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品制作(創作) ・はがき、封筒 ・行書の基本 ・筆ペンによる実用書 ・グリーティングカード ・年賀状 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字かな交じり書による文化祭作品を制作する。 ・はがきと封筒の書式を理解し、丁寧に書く。 ・行書の基本的な字形や運筆を理解し、習得する。 ・筆ペンの扱い方と実用書の書式、冠婚葬祭のマナーも理解する。 ・筆記用具や用紙の効果的な使い方と配色、構成を理解し、手書きによるグリーティングカードを作成する。 ・伝統的な書式とマナーを理解し、年賀状を作成する。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	出欠席、授業態度、学習意欲、提出物等を総合的に判断する。
留意事項	実習費有 (1, 000円)
アドバイス	文字を丁寧に正しく書くための基本的な技術を学びます。進路実現のための書類作成にいかすことができ、社会に出る際のスキルが身につきます。

硬 筆 (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	手書きに親しむ諸活動を通して、文字を大切に丁寧に扱う心情を育てるとともに、書写能力を高め、暮らしの中の実用書式について理解を深める。		
使用教科書	『くらしのペン習字』(教育図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・楷書の基本 ・筆順の確認 ・平仮名と片仮名の基本 ・履歴書 ・志望理由書 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み方などを理解する。 ・楷書の基本的な字形等を理解し、習得する。 ・正しい筆順を理解する。 ・平仮名と片仮名の字源、基本的な字形を理解して書きぐせを直す。 ・履歴書の書式を理解し、正確に書く。 ・志望理由書の書式を理解し、丁寧に書く。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭作品制作(創作) ・はがき、封筒 ・行書の基本 ・筆ペンによる実用書 ・グリーティングカード ・年賀状 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字かな交じり書による文化祭作品を制作する。 ・はがきと封筒の書式を理解し、丁寧に書く。 ・行書の基本的な字形や運筆を理解し、習得する。 ・筆ペンの扱い方と実用書の書式、冠婚葬祭のマナーも理解する。 ・筆記用具や用紙の効果的な使い方と配色、構成を理解し、手書きによるグリーティングカードを作成する。 ・伝統的な書式とマナーを理解し、年賀状を作成する。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・文字の基本点画、結構法、筆順等を理解し、基礎的な技能を身につけ表している。 ・漢字と仮名を調和させて書くことを理解している。 ・日常生活における手書き文字の書式を理解し、身につけ表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途、表現形式に応じた全体構成を考え、適切な文字の大きさ、配列、書体等を考え、工夫している。 ・身の回りで見かける、文字の表現効果を、生活に生かすことについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の基本点画等を把握し、その解決に向けて意欲的に取り組んでいる。 ・日常生活における手書き文字の良さや美しさに興味・関心を持ち、主体的に学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

演奏研究 (午後)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	音楽作品についての演奏研究を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する能力を養う。		
使用教科書	MOUSA1 (教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	声や楽器の特徴を踏まえた解釈及び演奏に関する研究 演奏法 いろいろな形態のアンサンブル	オペラ 交響曲 リコーダー リコーダーを中心に
後期	時代による表現上の特徴を踏まえた解釈及び演奏に関する研究 演奏法 いろいろな形態のアンサンブル	バロック～ロマン派を中心に ピアノ、ギター、和楽器 ピアノ、ギターを中心に

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身につけている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱や器楽、創作表現を創意工夫していたり鑑賞している。	主体的・協働的に歌唱や器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

声楽 (午後)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。		
使用教科書	MOUSA1 (教芸)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	発声 独唱・斉唱 合唱	ソルフェージュを含む 日本語・英語・イタリア語などの作品 二部合唱、三部合唱
後期	独唱・斉唱 合唱 ミニコンサート	日本語・ドイツ語などの作品 混声四部合唱 成果発表 (公開)

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽性豊かな表現について考え、楽曲の表現内容について理解を深めて、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身につけるようにする。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫し、鑑賞している。	主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

クラフトデザイン (午後)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	多様な材料を使って、手で作ることの楽しさや喜びを味わうとともに、創造的なものづくりをする。造形についての基礎・基本的な技術を学ぶ。		
使用教科書	「工芸Ⅰ」(日本文教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ◆木彫の基礎練習 薬研彫り・肉合彫り・浮き彫り ◆製図の基礎知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・木彫の基礎・基本的な彫り方を学ぶ。薬研彫り・肉合彫り・浮彫りで表現する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆木彫筆箱 薬研彫り・肉合彫り・浮き彫り ◆鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・日用品の栓抜の柄のデザインを考え、木彫、彩色、ニス仕上げまでの造形工程を学ぶ。 ・工芸品の制作過程の映像を鑑賞し、工芸の造形技法を学ぶ。

3 評価

履修の条件	旧課程のみ選択可能。
評価の方法	出欠、授業態度、授業参加、課題制作作品提出、期末考査等を総合的に判断。
留意事項	年間の教材費(一講座につき4,000円)
アドバイス	正確な表現を根気強く続ける、集中力が求められます。